

前田和子基金
重症児等とその家族に対する支援活動応援助成 第4回
＜助成決定にあたって＞

2025年5月13日
社会福祉法人中央共同募金会

1. 応募状況

- (1) 応募総数 56件
- (2) 応募総額 1億2,723万円
- (3) 応募団体の内訳
 - ①団体の所在地域…東京都12件、長野県4件など、全国の25都道府県から応募が寄せられました。
 - ②法人種別…NPO法人（認定NPO法人を含む）が最も多く28件あり、法人格のない団体も9団体ありました。

2. 助成決定状況

- (1) 採用件数 28件
- (2) 採用案件の助成総額 5,673万円

財源が限られていることから、応募要項に照らし合わせて審査を行い、必要性や資金的な緊急性が高い活動であると応募書から判断されるものを優先して決定しました。

3. 助成決定にあたって ～審査委員長コメント～

2021年9月、医療的ケア児の健やかな成長とその家族の離職防止を目的として、「医療的ケア児支援法」が施行されました。これにより、保育所や学校等への看護師の配置が自治体の責務とされるなど、医療的ケア児の地域生活を支える制度整備が進められてきました。

一方で、移動・通学支援、日中や緊急時の預かり支援、学校や通所サービスにおける専門性の高い看護師等による支援のさらなる充実が、いまなお求められています。

新型コロナウイルスの影響が徐々に落ち着く中、医療的ケア児や難病児、重度障がい児とその家族が社会と再びつながる機会は増えつつあります。しかしながら、サービス提供体制の地域差や、支援人材の確保・育成といった課題は依然として大きく、多くのご家族が日常生

活の中で困難を抱えています。

本助成は、これまでの3回の実施に続き、第4回目の取り組みとして実施いたしました。医療的ケア児とご家族を支える活動を、資金面から応援することを目的としています。

今回の第4回助成では、全国から56件の応募が寄せられ、審査委員会による慎重な審査の結果、28件の活動が採択されました。いずれの団体も、現場の実情に即した創意ある取り組みを展開しており、地域の支援体制の充実に大きく寄与することが期待されます。

<主な採択事業>

○通学・通所送迎支援のためのストレッチャーや車椅子対応車両、特殊浴槽、移動リフト、スヌーズレン機器、ICT支援機器など、医療的ケア児等の支援や生活の質の向上に資する機器の導入

○医療的ケア児とその家族の孤立を防ぐための、当事者による居場所活動やイベントの開催、きょうだい児支援のための居場所づくり

○災害や緊急時に備えた太陽光パネル・蓄電池の設置、宿泊訓練の実施、地域専門職と連携した防災パンフレットの作成

第4回助成の採択事業では、医療的ケア児を地域で支える取り組みとして、小中学生との創作活動や身体表現を行うマルシェの開催、当事者による学校向けの講演活動、看護師の育成やシンポジウムの開催など、設備導入といったハード面の支援から、地域連携や啓発活動といったソフト面の支援へと、取り組みの幅が広がりつつある様子が見受けられました。

医療的ケア児支援法の施行から数年が経過した今もなお、子どもとその家族が安心して暮らせる社会の実現には、継続的な支援と環境整備が不可欠です。

また医療的ケア児や難病児、重度障がい児とその家族を支える取り組みにおいては、関係機関が役割分担を図りながら連携し、地域全体で支え合う仕組みを構築していくことが期待されています。

本助成を通じて得られた成果が、各団体の今後の活動の発展につながり、行政や民間団体との連携を深める契機となることを願っております。

本助成が、医療的ケア児とその家族への理解と支援を広げる一助となることを、心より願っております。

なお、当助成プログラムは、今回より、中央共同募金会に遺贈寄付をお寄せいただいた故 前田和子様のご遺志を踏まえ、「前田和子基金・重症児等とその家族に対する支援活動

応援助成」として実施するものです。故 前田和子様にあらためまして感謝の念を申し上げます。

「重症児等とその家族に対する支援活動応援助成」審査委員会
審査委員長 石 渡 和 実